

Chorus Ohyama 合唱団おおやま

95年8月に旧大山町民を中心に結成。96年8月に第1回の「夏のメサイア」を公演。以来、毎年夏にオーケストラとの共演による公演を重ね、今回が17回目の演奏会となる。富山市大山文化会館で、毎週水曜日夜7時30分から、練習を行っている。



<http://ww2.ctt.ne.jp/~ohyama/>

合唱団おおやま 検索

合唱団おおやまでは、団員を募集しています。随時、練習の見学を歓迎します。

お問合せは富山市大山文化会館(076-483-0001)まで。

ソプラノ 岩竹 幸絵 / 岡本 洋子 / 谷崎 千紗 / 谷崎 千鶴 / 千葉 多恵 / 中川 俊江 / 山崎 忍 / 横野 樹里

アルト 麻島 利子 / 井上 澄子 / 岡本 紀子 / 岡本 智子 / 桶谷 道子 / 奥野 知子 / 片山 美富里 / 木村 まゆみ
五井 礼子 / 高木 茂子 / 仲井 葉子 / 中川 律子 / 早水 淑子 / 原田 栄子 / 平崎 康子 / 村椿 伸子

テノール 井内 学 / 岩田 篤司 / 廣野 正和 / 三羽 康嗣 / 山崎 勝幸

バス 上田 慎一 / 窪田 英史 / 谷崎 修一 / 野入 豊光 / 丸山 隆



合唱団おおやま
と一緒に歌おう
メンバー

ソプラノ 坂口 佳子 / 林 真理 / 藤村 千賀子 / 三浦 有貴 / 柳瀬 深雪

アルト 高田 真保 / 寺林 美穂子 / 堀 明美

テノール 市橋 健 / 堺谷 芳孝 / 田村 誠千代

バス 上野 友二郎 / 小柳 哲哉 / 柴田 由貴 / 武内 博康 / 立花 睦英 / 森井 淳

合唱団あるも・合唱団音楽室・合唱団楽音樹 など

合唱指揮 **内山 太一**

武蔵野音楽大学声楽科卒 ミュンヘン国立音楽大学声楽科卒。シューベルトの三大歌曲集「美しき水車小屋の娘」「冬の旅」「白鳥の歌」等ドイツ歌曲のリサイタルを数多く開催。藤原歌劇団公園のオペラやメサイア、ベートーベン第九等数多くのコンサートに出演。NHKFM等ラジオ、テレビにも出演。

1993年再度一年間ドイツに留学。これを機に故郷上市を拠点に演奏活動を展開している。合唱団おおやまの他、入善混声合唱団、男声合唱団「ジョイフル・フレンズ」、黒部第九を歌う会、上市町子供の城児童合唱団、大地の会女声合唱団等の指導。

元武蔵野音楽大学声楽科講師 元洗足学園魚津短期大学声楽科講師、声楽研究グループ 大地の会主宰

Orchestra Ensemble Kanazawa オーケストラ・アンサンブル金沢

1988年、世界的指揮者、故岩城宏之が創設音楽監督(現在、永久名誉音楽監督)を務め、多くの外国人を含む40名からなる日本最初のプロの室内オーケストラとして石川県と金沢市が設立。石川県立音楽堂を本拠地とし、世界的アーティストとの共演による年20回の定期公演や、北陸、東京、大阪、名古屋での定期公演など年間約110公演を行っている。2011年夏、シュレスヴィヒ=ホルシュタイン音楽祭(ドイツ)、ラ・ロック・ダンテロン国際ピアノフェスティバル(フランス)からの招聘を含む15度目となる海外公演を実施。設立時よりコンポーザー・イン・レジデンスを実施、多くの委嘱作品を初演、CD化している。ジュニアの指導、学生との共演、邦楽との共同制作などオーケストラ育成・普及活動にも積極的に取り組んでいる。ドイツグラモフォン、エイベックスなどより90枚を超えるCDを発売。07年1月より、指揮者の井上道義を新音楽監督に迎え、新たな活動を展開し、注目を集めている。



Orchestra Ensemble Kanazawa with Chorus Ohyama 2012



助成:文化芸術振興費補助金
(トップレベルの舞台創造事業)

第17回演奏会

オーケストラ・アンサンブル金沢 with 合唱団おおやま 定期公演

と き / 2012年 8月 26日(日) 13:30 開場 14:00 開演 ところ / 富山市大山文化会館

(主催) (財)石川県音楽文化振興事業団・富山市、「オーケストラ・アンサンブル金沢 with 合唱団おおやま定期公演」実行委員会 (共催) 北日本新聞社 (後援) FMとやま

1 ドビュッシー 小組曲

- [1] 小舟にて
- [2] 行列
- [3] メヌエツト
- [4] バレエ

〔曲目解説〕

この曲は、クロード・ドビュッシー(1862~1918)が26歳のころ、1888年から1889年にかけてピアノ連弾曲として作曲し、その後(1907ころ)、ドビュッシーの友人であったアンリ・ビュッセルにより、管弦楽用の編曲がなされた。この管弦楽版によりこの曲は人気を得た。印象派の第一人者として名高いドビュッシーの音楽は、独特の曖昧な雰囲気を持つ曲が多いが、ドビュッシーが印象派の音楽的手法を確立する前に作曲されたこの曲は、いずれの楽章も平易で愛らしく、多くの人々に親しまれている。

2 The Sprig of Thyme (タイムの小枝)

編曲 ジョン・ラター

- [1] The bold grenadier (ある手榴弾兵)
- [2] The keel row (漕げよ平船)
- [3] The willow tree (柳)
- [4] The sprig of thyme (タイムの小枝)
- [5] Down by the sally gardens (柳の庭で)
- [6] The cuckoo (カッコー)
- [7] I know where I'm going (わかっているわ)
- [8] Willow song (柳の歌)
- [9] O can ye sew cushions? (ねえクッション縫える?)
- [10] The miller of Dee (愉快な粉屋)
- [11] Afton water (アフトン河の流れ)

〔曲目解説〕

イギリスやアイルランドに伝わる民謡をジョン・ラター(イギリスの作曲家。1945~)が美しい合唱曲に編曲している。どの曲も、素朴で私たち日本人にも親しみやすいメロディであり、ラターの編曲もさらりと美しい、心にしみる音楽に仕立てている。子守唄(ねえクッション縫える?)もあるが、船頭にあこがれる少女(漕げよ平船)、柳の木の下で失恋の痛みを苦しむ男(柳)など、恋愛や失恋の歌が多い。聞く人の心にそっと寄り添ってくれるような、優しい曲集である。

3 日本中に歌声を「歌おうNIPPON」プロジェクト

～東日本大震災の被災者の皆様へ～より

作詞・作曲 佐藤 賢太郎

- [1] つながり
- [2] 前へ



〔曲目解説〕

「歌おうNIPPON」プロジェクトは、カワイ出版が実施しているもので、日本中の合唱人と作曲家の協力を得て、歌声を東日本大震災の被災地に届けようというプロジェクトである。被災者の為に書かれた新しい作品を無料で配信し、日本中で歌ってもらい、そしてできるだけ沢山の歌声を、ネットを通じて被災された方々に送る、ということを目指している。作曲家はこのプロジェクトのために、無償で作品を提供している。

「つながり」は、「歌おうNIPPON」プロジェクトの1曲となっているが、元々は、このプロジェクトのために書かれた歌ではない。今年には富山で開催された全国高等学校総合文化祭が、去年は福島県で開催された。この開催が危ぶまれた総文祭の開会式のために佐藤賢太郎(1981~)が作詞・作曲したのがこの「つながり」である。

「前へ」は、佐藤賢太郎がこのプロジェクトのために歌詞と音楽を書き下ろしたものである。被災者の心情に共感しようと努め、被災者が一歩でも前へ進めるよう願う作曲者の思いが、歌詞と音楽にあふれており、全国の合唱団の支持を得て、全国で歌われている。

今回は、この「つながり」「前へ」と「ふるさとの四季」を「合唱団おやまと一緒に歌おう」と参加を募ったところ、県内の合唱団のたくさんのメンバーが参加してくれました。ひとりひとりの歌への熱い思いをひとつに結んで歌いたいと思います。

4 混声合唱のための唱歌メドレー「ふるさとの四季」

編曲 源田俊一郎

- ふるさと 故郷 ～ 春の小川 ～ おほろづきよ 朧月夜 ～
- 鯉のぼり ～ 茶摘 ～ 夏は来ぬ ～
- われは海の子 ～ 村祭 ～ もみじ 紅葉 ～
- ふるさと 冬景色 ～ 雪 ～ 故郷



〔曲目解説〕

「ふるさとの四季」は題名のとおりの、故郷で始まり、春から順に四季を追ってなじみ深い唱歌が続いた後、再び故郷で曲を締めくくっている。

この曲集は、「メドレー」であり、休みなく続けて演奏されるが、元の歌の曲想を損ねることなく、自然な美しい編曲で、人気の合唱曲集となっており、県内でも盛んに演奏されている。

今日この日の演奏会に向けて寄せられた作詞・作曲家/佐藤 賢太郎さんからのメッセージ

「前へ」と「つながり」によせて

私たちは、多くの思い出を心の中に持ちながら人生を歩いています。そして、その思い出や、今の私たちの気持ちを周りに伝えたい、残したいと誰もが願いながら前に進んでいます。「前へ」は、自分と共に歩んだ大切な人の思い出と自分の決意を、「つながり」は福島の高校生達が書いたアンケートから感じられた想いを歌った楽曲です。両楽曲共に、東日本大震災という出来事を受けた作品ですが、より大きく広く沢山の人の「思い出」と「想い」を包む曲を目指して作詞作曲をさせていただきました。このコンサートの歌に溢れる、多くの「思い出」と「想い」が、皆様に伝わることを祈って。

山下 一史(指揮)

1984年桐朋学園大学卒業後、ベルリン芸術大学に留学。1986年ニコライ・マルコ国際指揮者コンクールで優勝。1985年～1989年までカラヤンのアシスタントをつとめ、急病のカラヤンの代役をジーンズ姿で務め話題となる。ヘルシンボリ交響楽団(スウェーデン)首席客演指揮者、オーケストラ・アンサンブル金沢プリンシパル・ゲスト・コンダクター、九州交響楽団常任指揮者を歴任。また、2002年より大阪音大ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団常任指揮者を務め、2008年4月より同団名誉指揮者に就任。2006年より仙台フィルハーモニー管弦楽団の指揮者として迎えられ、CD制作を行うなど積極的な活動を展開。2009年4月から2012年3月まで同団正指揮者。2009年4月にはサントペテルブルク交響楽団定期に出演し、大成功を収めた。現在、オペラ、オーケストラの両面において着実な成果を積み上げている指揮者として、ますます注目を浴びている。



村上 麻理(ピアノ)

洗足学園大学音楽学部器楽科ピアノ専攻を卒業、同大学専攻科修了。黒田素子、増田真理子、マックス・エッガー、横山幸雄、加藤徹各氏に師事。1991年～1996年富山広域圏文化交流事業クラシックシリーズ・富山テレビクラシックシリーズにてソリスト出演。1998年～2001年新ブダペスト弦楽四重奏団とシューマン「ピアノ五重奏曲」を共演、日本・ポーランド国交樹立80周年記念。コンサートショパン物語出演、ルビンシュタイン弦楽四重奏団とピアノ五重奏曲を共演。また、室内楽、歌曲、管楽器等の伴奏でも活躍している。2005年立山町音楽協会主催招待音楽会で「とやまレディーズ・オーケストラOASIS」とモーツァルトのピアノ協奏曲を共演。2005年富山県芸術文化協会奨励賞表彰。現在、富山県立保育専門学院非常勤講師・ミヤコ楽器店ピアノ科指導講師・富山県ピアノ指導者協会委員・合唱団おやまと、コロバスターレ専属ピアニスト。